

## インターペット ～人とペットの豊かな暮らしフェア～ 開催される

令和4年3月31日(木)から4月3日(日)までの4日間、東京ビッグサイトにおいて、ペットフード協会、日本ペット用品工業会及びメッセフランクフルトジャパン(株)主催による「第11回インターペット～人とペットの豊かな暮らしフェア～」が開催された。

新型コロナウイルス対策が施された会場には、4日間で来場者43,755人、犬や猫等のペット18,513頭が飼い主とともに訪れ、会場は大いに賑わった。本会として8回目の参加となる今回は、オープニングのビジネスフォーラムに藏内会長がパネリストとして参加したほか、一般来場者向けにステージ企画及びキッズ獣医師体験を実施した。以下に概要を報告する。

3月31日(木)には会期の冒頭を飾るオープニングプログラムとしてビジネスフォーラム「人口減少と飼育頭数減少、ペットと暮らす需要創造とは何か」が開催された。(一社)人とペットの幸せ創造協会の越村義雄会長の進行のもと、本会藏内会長、(一社)全国ペットフード・用品卸商協会の高橋一彦代表理事会長(エコトレーディング(株)代表取締役会長)、(一社)地域活性化支援機構の三原 晃理事長、(一社)ペットフード協会の児玉博充会長、共立製菓(株)ペット事業推進部の福島正晴部長が登壇して、将来に向けた人とペットのよりよい暮らしについて考えるパネルディスカッションが行われた。

4月2日(土)には、本会主催のステージ企画とアリーナ企画であるキッズ獣医師体験が行われた。会場内の特設ステージでは、本会主催による企画「ワンヘルスからはじまる未来」が開催された。

冒頭、藏内会長から「2022インターペットにおける日本獣医師会ステージ企画、『ワンヘルスからはじまる未来』が皆さまのご参加を得て開催されるにあたり、日本獣医師会を代表してご挨拶を申し上げます。このたびの新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの生活と社会活動に多大なる影響を及ぼしました。このインターペットも開催が危ぶまれましたが、参加いただく皆さまとペットたちの健康保全を第一に考え、感染予防対策を万全に講じることとして、主催者及び関係者の方々のご尽力により開催が決定されたと伺っております。ペットフード協会児玉博充会長、日本ペット用品工業会赤津功一会長をはじめ、本イベントの開催準備・運営に携われた皆さま方に心から感謝申し上げます。日本獣医師会も感染予防を第一に考え、本大会への参加について熟慮した結果、例年開催してお子さま方が楽しみにしている獣医師体験イベントと、

そして、ポストコロナを迎え今後ますます重要になると思われるワンヘルスの考え方を皆さまにご理解いただくため、このステージ企画を開催させていただくことといたしました。このたびの新型コロナウイルス感染症も動物由来の人と動物の共通感染症と言われており、その対策を講じるうえで、人と動物の健康と環境保全を一体的に推進するワンヘルスアプローチの重要性が一層高まっています。日本獣医師会は、平成22年に『動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。』という活動指針を採択して、ワンヘルスの考え方を取り入れて以来、日本医師会とワンヘルスの実践に関する学術協定を締結し、各地域においても医師会と獣医師会が連携体制を構築しています。本日はパネリストの皆さまからワンヘルスについて有意義なお話を聞き、皆さまとともに日本獣医師会も今後の活動の糧にしたいと考えています。今回のステージ企画では、日本獣医師会の村中志朗副会長をオーガナイザーとして、他の都道府県に先駆けてワンヘルスに関する条例を制定するなど、先進的な取り組みを行っておられる福岡県のご紹介いただきます。医師側からは福岡大学病院感染制御部の戸川 温部長、獣医師側からは福岡県獣医師会の草場治雄会長、そして福岡県の行政から福岡県保健医療介護部保健医療介護総務課ワンヘルス総合推進室左藤秀樹室長をお迎えし、福岡県のワンヘルスに関する状況をわかりやすく解説していただくとともに、今後の方向性等について協議していただく予定であります。本日は、各パネリストの先生方からのご講演を伺ってこれまでの活動の経過を整理し、情報を共有する機会にしたいと考えております。何卒よろしくお願いいたします。ご来場の皆さま方に改めて厚く御礼申し上げますとともに、ワンヘルスの概念が普及し、コロナ禍を乗り越えて人と動物が共存する環境の整備が一層推進されることを祈念いたします。」と挨拶された。

続いて本会の村中志朗副会長から、ワンヘルスの理念を紹介しつつ、先進的な福岡県での取組事例が紹介された。パネリストとして3名が登壇し、戸川 温氏(福岡大学病院感染制御部部長)からは「医師の視点から見たワンヘルスの実践」として人獣共通感染症の歴史から人と動物の健康、及び環境の健康を包括的に考えるワンヘルスアプローチが重要であることが、草場治雄氏(福岡県獣医師会会長)からは「獣医師の視点から見たワンヘルスの実践と福岡県獣医師会の取組み」として福岡県獣医師会と福岡県医師会が連携した取組事例や、全国で初

めて福岡県ワンヘルス推進基本条例が制定されたことが紹介された。左藤秀樹氏（福岡県保健医療介護部保健医療介護総務課ワンヘルス総合推進室室長）からは「福岡県におけるワンヘルスの取組」として福岡県ワンヘルス推進基本条例を具体化する福岡県ワンヘルス推進行動計画について紹介がされた。その後、全員によるパネルディスカッションが行われた。

「キッズ獣医師体験」では、東京都獣医師会、家庭動物愛護協会及び同協会を通じて犬の派遣をいただいた

SJD ドッググルーミングスクール及び獣医学生協会（JAVS）の協力により、子どもたちを対象とした動物診療の模擬体験企画を開催し、42名の参加者が小動物診療獣医師の仕事の雰囲気を感じた。同コーナーにおいては、令和4年10月1日に上野恩賜公園不忍池周辺で開催される「2022動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”」に関する普及活動を行った。

本会では、今後ともさまざまなイベント等を通じ、市民向けの普及推進活動を行うこととしている。



図1 ビジネスフォーラム「人口減少と飼育頭数減少、ペットと暮らす需要創造とは何か」で講演する藏内勇夫会長

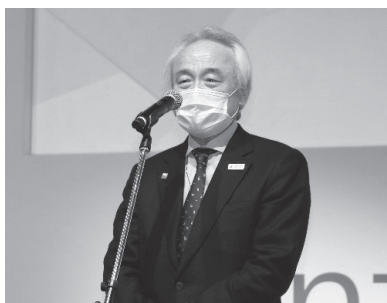


図2 本会主催のステージ企画「ワンヘルスからはじまる未来」で挨拶する藏内勇夫会長



図3 企画の趣旨説明をする村中志朗副会長



図4 講演する福岡大学病院感染制御部 戸川 温部長



図5 講演する福岡県獣医師会 草場治雄会長



図6 講演する福岡県保健医療介護部 保健医療介護総務課ワンヘルス総合推進室 左藤秀樹室長



図7 キッズ獣医師体験で犬の心音を聴く児童



図8 キッズ獣医師体験で犬の健康観察をする児童



図9 キッズ獣医師体験にご協力いただいた東京都獣医師会会員獣医師と日本獣医学生協会（JAVS）スタッフ